第3回 Clinical AI 外部評価委員会　講評

令和5年7月10日(月)に Clinical AI 外部評価委員会を開催し、第2回外部評価委員会を開催した令和4年6月から令和5年6月までの Clinical AI の取組状況についてレビューを行った。

この高度人材育成プロジェクトは医療系大学院博士課程に設置され、正規課程学生とインテンシブコース生を対象としたものであり、これら学生がこのプロジェクトでの就学後に「Global×Local な医療課題解決を目指した最先端 AI 研究開発」を高いレベルで実践できるようになることを大きな目的としている。そのため、プロジェクトの真の成果を判断するためには、本課程に入学した者がどのように医療現場で AI を活用し活躍しているかをレビューすることが必要であるが、それに至るプロセス等を評価することも、同じく重要と考えられる。

従って、今回の外部評価委員会においては、各大学における受講生の量的状況、教育実施状況、個別の取組み、指導体制、第2回外部評価委員会での指摘事項への対応、令和5年度の事業予定についてレビューを実施した。

以下、各委員からの意見である。

〇プロジェクトの進捗について：

正規課程生やインテンシブコース生は KPI を大きく上回っており、定量的な目標をクリアしていると言える。3大学や他拠点との連携を十分に行い、また第2回外部評価委員会での指摘事項についても積極的に取り組んでいるところが高く評価ができる。全体としてプロジェクトの進捗は良好であり、人材教育という観点では、大きな成果をあげているといえる。今後の海外連携、産学官連携による社会実装についても期待したい。

〇海外、産官学、地域との連携について

社会実装となるとハードルが高くなるが、引き続き海外機関や名古屋大学とも連携し、成果を挙げていってほしい。また産学連携をさらに推進し、企業からの投資を呼び込むことがさらに必要と考える。生成系 AI を搭載した標準化電子カルテの開発にも是非積極的に取り組んでいただき、使い勝手のよいものができれば更に地域のクリニックとの連携も深まると考える。

地域連携の観点でさらに取り組んでほしい点があり、内閣府で行っているデジタル田園都市構想という地域のトータルウェルビーイングを良くしていこうとの取り組みがあり、その中で医療や健康に対して AI を使用しアプローチしていくことは社会課題的にも重要となる。医療の外で動いている話ではあるが、内閣府との連携についてもご検討いただきたい。

〇今後より取り組んでほしいテーマに関して：

AI が画像認識から生成系に移りつつあるため、その部分を確実に捉えたプロジェクトになるといいと考えている。また医療ミスや事故を防ぐような現場に近いテーマや臨床で困っている課題を解決するようなテーマにも取り組んでほしいと感じた。臨床や医療現場を経験した人が、学生となり学び直せるような枠組みも検討してほしい。

〇法規制に対する対応について

今後、医学教育のなかでも AI 医療の部分は重要になってくると考える。法の改正が AI の進歩に追い付いていない現状もあるため、我々医療者側が AI リテラシー教育の重要性を理解するとともに、その周辺のルール作りも本プロジェクトにて日本を先導するかたちで取り組んでほしい。

〇学生同士のコミュニケーションについて

学生同士のコミュニケーションも重要になってくると感じる。その点について大学を超えたシステムづくりを推進し、日本の AI が進歩しやすい土台作りをしてほしい。

以上を踏まえ、総評としては次のとおり評価する。

・プロジェクトの進捗は良好で前回指摘点への対応を含め大きく成果を上げており、これまでの取組み、特に人材教育については高く評価する。
・今後より一層の海外機関・産学官・地域連携を強化し、社会実装をセカンダリーエンドポイントと見据えて成果を挙げていってほしい。
・主流となる生成系 AI を取り入れたテーマや医療現場に即したテーマなどにも取り組み、また臨床現場を経験した方向けのリスキリングの枠組みも検討してほしい。
・法規制に対する対応としての、情報利活用の取り組みや AI リテラシー教育については、引き続き日本を先導するかたちで取り組んでほしい。

令和 5 年 7 月 10 日

Clinical AI 外部評価委員会

委員長　八重樫　伸生